

12月のアンケートでは、大変お世話になりました。アンケートの結果は、おおむねよい評価をいただいておりますが、目標に達しなかった項目については、全職員で問題を共有し、原因を分析するとともに改善策を立案しました。その他の項目については、現在の取組を継続し、効果を検証します。今後も、職員一同努力していきます。

羅 針 盤			方 策	前回 総合 評価	今回 総合 評価	改善策
評価対象	評価項目	具体的数値項目				
I 確かな学力 (自ら学び考 える子)	①	学校は児童が「わかった、できた」という授業を行っている。	「授業は楽しく分かりやすい」と答えている児童が80%以上である。	A	A	①、③の項目については、年間を通して概ね良好な結果となりました。 学校では、引き続き、子どもたちが「分かった」「楽しかった」と実感できる授業づくりを推進していきます。そのために、子どもたちが主体的に学習に取り組める授業展開の構築を目指し、授業研究に継続して取り組んでいきます。また、ICTは活用すること自体を目的とするのではなく、授業のねらいを達成するための一つの手段として位置付け、資料提示や学習の理解を促すために効果的に活用していきます。 ②の家庭学習については、出された宿題に概ね取り組む姿が見られます。一方で、宿題への取組は最低限の基準であり、子ども一人一人の理解度に応じた自主的な学習の充実が課題としてあります。そこで、教師は、個別面談等を通して、子どもたちの実態に応じた自主学習の進め方や学習内容について助言し、継続的な指導を行ってまいります。中学年以上の児童については、「マイルストーン」の活用を促し、実態に応じた課題を計画的に配信します。また、ご家庭と連携し、ご家庭での生活習慣(特にスマートフォン、ゲーム等の利用時間)について指導し、学習に集中できる環境づくりを進めていきたいと思っておりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。あわせて、「家庭学習パワーアップ週間」を活用し、家庭学習の振り返りと改善を図り、家庭学習の質の向上につなげていきます。
	②	学校は、児童に家庭学習の習慣が身に付くよう適切に指導している。	「家庭学習(読書を含む)を学年×10分以上している児童が80%以上である。	B	B	
	③	学校は、ICTを効果的に活用した学習をしている。	ICT(タブレット、映像、プロジェクター等)を使用することによって、学習がわかりやすくなったと答える児童が80%以上である。	A	A	
II 豊かな心 (思いやりの ある子)	④	学校は児童があいさつができるように適切に指導している。	「自分からあいさつができる」と答えている児童・教師・保護者が80%以上である。	A	A	あいさつについては、概ね良い評価が得られています。しかし、前回に引き続き、場面に応じたあいさつができなかったり、消極的であったりする姿が見られます。あいさつは、人と人が関わり合って生活していく上での基本的なコミュニケーションであり、良好な人間関係を構築するために重要であることから、今後も継続して指導していきます。また、道徳科の授業等においても取り上げ、意識の向上を図ってまいります。 ⑤の項目については、前回に引き続き、保護者の評価が「B」でした。授業や学校生活の中で、子どもが自ら考え、選択し、決定する場面を意図的に増やすとともに、教師が先回りして指示するのではなく、子どもに問い返し、考える時間を保障する指導を大切にしていきます。また、係活動や当番活動においても、子ども同士の話し合いを重視し、自分たちで決めて行動する経験を積み重ねていきます。あわせて、子どもが自分で考えて行動した姿や、その過程を学年通信や懇談会等を通してご家庭に積極的に伝え、ご家庭と学校が連携して子どもの主体性を育てていきたいと考えています。失敗を恐れず挑戦することを認め合う学級・学校の風土づくりを進めながら、子ども一人一人が自分の行動に責任をもち、主体的に行動できる力の育成に取り組んでいきます。 ⑥の項目については、児童の評価がBからAに改善しました。2学期は、運動会などの行事が多く、それぞれの行事を通して達成感や充実感を得られた児童が多かったことが、評価改善の一因であると考えられます。今後も、児童の自己有用感を高める指導を継続していきます。 ⑦のいじめに対する対策・対応については、「いじめは絶対に許されない」という認識のもと、A基準を100%と設定しているため、評価はBとなりました。いじめに関しては、定期的に実施している生活アンケートや心の健康観察の結果だけに頼るのではなく、教師が「学校にはいじめが起こり得る」という意識を常にもって、子どもの様子を丁寧に見取り、早期発見に努めます。いじめが確認された場合には、担任のみで対応するのではなく、組織的な対応体制を整え、被害児童およびその保護者と連携を図るとともに、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等と協力しながら、解決に向けて取り組んでいきます。 ⑧の項目については、子どもたちが困ったことや悩みを相談しやすくなるよう、「相談してもよい」というメッセージを明確に発信していきます。具体的には、困ったときに相談することは「弱さ」ではなく「大切な力」であることを、学級等で繰り返し伝えます。また、「大丈夫？」といった抽象的な声かけではなく、「何か困っていることはない？」と具体的に問いかけます。さらに、子どもからの些細な相談であっても丁寧に受け止め、否定しない対応を全教職員で徹底していきます。
	⑤	児童の自己指導能力を育成している。	「自分の行動は、自分の頭で考えて自分で決めて動くことができる。」と答える児童が80%以上である。	B	B	
	⑥	学校生活が楽しいと感じている児童が90%以上である。	学校生活が楽しいと感じている児童が90%以上である。	B	A	
	⑦	学校はいじめのない学校づくりを推進している。	学校のいじめへの対応や対策ができていない児童・保護者が100%である。	B	B	
	⑧	児童は身近な人や相談窓口等に困ったことや悩みなどを相談できる。	「学校に相談がしやすい」と答える児童が90%以上である。	B	B	

Ⅲ 健康・体力 (心も体もたくましい子)	⑨	学校は、児童が基本的な生活習慣が定着するような働きかけを行っている。	毎日朝食をとっている児童が80%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> ・食事と体の成長を関連づけた授業を充実させる。 ・栄養士による朝食の大切さを扱った授業を実施する。 ・陸上、持久走、なわとびの練習時間を、年間を通して計画的に設定する。 ・朝行事に体育集会を取り入れる。 ・体育の授業で、鉄棒カード、なわとびカードを準備し、自主的に練習ができるようにする。 	A	A	<p>前回の結果に引き続き、概ね良好な結果となりました。朝食の摂取や十分な睡眠時間の確保については、ご家庭の協力が不可欠であることから、学校としては、保健だよりや給食だより等の配付物を通して、食事や睡眠の大切さについて継続的に発信していきます。</p> <p>体力向上については、運動会や持久走記録会の測定に向けて、全校で練習する機会を設けるとともに、昼休み等における外遊びを推奨していきます。冬季は寒さの影響により運動量が低下しやすい時期であるが、なわとび等を体育の授業と関連付け、児童一人一人が目標を設定して取り組むことで、運動への意欲を高め、体力の向上を図っていきます。</p>
	⑩		毎日1日8時間以上の睡眠をとっている児童が80%以上である。		A	A	
	⑪	学校は、進んで体力の向上を図ろうとする児童の育成に努めている。	進んで体力の向上を図ろうとする児童が80%以上である。		A	A	
Ⅳ 家庭や地域との連携	⑫	学校は、学校の考えや児童の様子を保護者にわかりやすく伝え、理解を得ている。	「学校の考えや子どもの様子が分かる」と答えている保護者が、80%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校だより、学年だより、学級だよりを定期的に配布し、学校ホームページでも学校や児童の様子を保護者や地域へ発信する。 	A	A	<p>すべての項目において、目標を達成することができました。今後も、ご家庭が学校へ連絡や相談しやすい環境づくりを進めるため、学校から積極的に「気軽に相談できる」姿勢を発信するとともに、相談窓口や連絡方法を分かりやすく整備していきます。また、教職員が保護者皆様の思いを丁寧に受け止め、迅速かつ誠実に対応することで、信頼関係の一層の構築に努めていきます。</p> <p>今年度も、多くの地域ボランティアの方々に来校していただき、学校と地域が連携・協力しながら、子どもたちの育成に取り組むことができました。今後は、ボランティアの輪をさらに広げるため、ご家庭や地域への積極的な呼びかけを行うとともに、学校運営協議会委員と連携し、地域の方が学校に来校しやすい環境づくりを進めていきます。</p>
	⑬		「学校に連絡や相談がしやすい」と答えている保護者が80%以上である。		A	A	
	⑭	学校は、目指す学校像「地域とともに学び、子どもの夢と可能性を育む学校」の実現に努めている。	「している」と答える児童・保護者・教員が80%以上である。		A	A	
Ⅴ 安全確保・施設設備	⑮	学校は、交通事故防止、火災・地震・不審者対策など、安全教育の徹底を図っている。	交通ルールを守り、安全に気をつけて登下校している児童が90%である。	<ul style="list-style-type: none"> ・警察署と連携して、参加体験型の交通安全教室・不審者対応を、消防署と連携して、実際の事案や災害を想定した不審者対応・火災・地震を想定した避難訓練や着衣水泳を実施する。 ・学級活動において、安全な歩行の仕方について指導する。また、交通安全教室を実施し、中高学年の児童に自転車の乗り方の指導を行う。 ・学期末の集団下校時に、通学路点検を行い、登下校の安全確保に努める。 	A	A	<p>交通安全については、概ね良好な評価を得ることができました。今後も、交通安全教室を継続して実施するとともに、学級において交通ルールやマナーの徹底について、日常的な指導を行っていきます。</p> <p>防災に関しては、前回に引き続き、保護者の評価が低い結果となりました。災害や火災発生時の避難方法や避難場所について、ご家庭での確認が十分に行われるよう、学校から分かりやすい情報発信を行うとともに、児童を通じたご家庭への働きかけを一層強化していきます。また、避難訓練や引き渡し訓練の取組を活用し、ご家庭と学校が連携して防災意識を高め、児童の安全確保に努めていきます。さらに、学校公開日に併せて実施している地域の防災訓練について、役員の保護者だけでなく、多くの保護者の皆様に参加できるように、積極的に発信していきます。</p>
	⑯		災害や火災発生時の避難の仕方がわかると答える児童が90%以上である。		B	B	
Ⅵ キャリア教育	⑰	学校は、自分の将来の夢や希望について主体的に考えるキャリア教育の推進を図っている。	「将来の夢や希望について考えている」と答えている児童が80%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> ・総合や社会、学級活動などを中心に、自分の将来や進路について考える活動を意図的に設定し、キャリア教育を充実させる。 	A	A	<p>前回に引き続き、目標を達成することができました。しかし、教員の達成度は向上しませんでした。その要因として、将来や進路について考える学習が一部の活動にとどまっているという課題が見られました。改善策として、今後はキャリアパスポートの活用に加え、総合的な学習の時間や社会科、学級活動を中心に、発達段階に応じたキャリア教育の視点を明確にした計画的な指導を行うことで、児童が自分の将来を主体的に考えられる学習の充実を図っていきます。</p>
	⑱		「自分の持ち味を理解し、それを生かそうとしている」と答えている児童・保護者が80%以上である。		A	A	